

## 主体的な活動を支える学習環境により、 一人一人がよさや可能性を拓く生活科の学習

### I 生活科研究の方向性

#### 1 主題設定の理由

新学習指導要領において、生活科は、「自立し生活を豊かにしていくための資質・能力」を育成することを目標としています。今まで以上に「発達段階に応じた思考や認識の育成」「幼児教育とのつながり」「中学年の各教科等への接続」を大切にしながら、一人一人の思いや願いが実現する直接体験を重視した学習活動を展開し、生活科での学びを他教科等の学習や実生活に生かされるようにすることが求められています。

これまでの本校の研究では、体験活動と表現活動の相互作用により活動が連続していく過程を大切にしてきました。伝え合い交流する場の工夫により、次の活動を創り出していく児童の姿がありました。一方で、学習対象と関わることを通して、自分自身への気づきを促し、意欲や自信をもって実生活に生かしていくことについてはさらに研究していく必要があります。

全体研究では、「探究する子供を育てる教育活動の創造」をテーマとしています。生活科における探究とは、学習対象と関わる中で生まれた気づきから思いや願いをもち、その実現のために学習対象と関わる活動や体験を繰り返していくことと押さえました。児童が活動や体験を繰り返していくためには、思いや願いを原動力とし、幼児期の学びや経験を生かして学習対象へ主体的に関わることができる学習環境の充実が不可欠です。

そこで、研究主題を「主体的な活動を支える学習環境により、一人一人がよさや可能性を拓く生活科の学習」と設定しました。「主体的な活動を支える学習環境」とは、次の2つのことを指しています。1つ目は、学習対象に興味・関心をもったり、幼児期の学びや経験を生かしたりして、進んで学習対象と関わるができる物的環境のことです。2つ目は、活動を繰り返す中で、友達と協働したり、教師の指導を受けたりすることができる人的環境のことです。また、「一人一人がよさや可能性を拓く」とは、児童が学習対象への気づきをもとにして、自分自身の成長や変容を捉え、学習の手応えを感じることです。

#### 2 目指す児童の姿とその具体

##### 学習対象への主体的な関わりを通して、自分をよりよく理解する児童

「学習対象への主体的な関わり」とは、思いや願いを実現するために、繰り返し学習対象と関わったり、友達との協働や教師の指導を基によりよい関わり方を模索したりすることです。

「自分をよりよく理解する児童」とは、学習対象との関わりの中で、自分自身への気づきを得て、自分の成長やよさを自覚し、それを実生活に生かしていこうとする姿のことです。

## Ⅱ 研究内容の具体

### 1 主体的な活動を支える単元構成の工夫

生活科において、児童が主体的に学習対象と関わっていくためには、学習対象への興味・関心を高め、学習の原動力となる思いや願いをもつことができるようにすることが重要です。また、児童が自ら繰り返し学習対象に関わったり、幼児期の学びや経験を生かしたりすることができる環境を構成することが大切です。そこで、思いや願いをもつための単元の導入場面の工夫や、思いや願いを発展させ、その実現を図るための物的環境の充実が必要だと考えました。

#### ○単元の導入場面の工夫

- ・学習対象への興味・関心を高め、思いや願いをもつための「出会いの活動」の設定
- ・児童の思いや願いを基に、学習テーマを明確にする「交流活動」の設定

#### ○物的環境の充実

- ・思いや願いを発展させ、繰り返し学習対象と関わることのできる環境構成の工夫
- ・気づきを生み出したり、つないだりして思いや願いの実現を図る環境構成の工夫（場所、広さ、配置、材料、道具、学習履歴等）

### 2 自分自身への気づきを促す指導の工夫

生活科においては、学習対象との関わりを通して、「対象への気づき」を促すとともに、自分自身の成長や変容、よさ等を自覚する「自分自身への気づき」を促していくことが重要です。そこで、児童の気づきを「対象への気づき」から「自分自身への気づき」へと高めていくためには、友達との協働や教師の働き掛け等の人的環境を生かした指導が必要だと考えました。

#### ○交流活動の工夫

- ・考えのよさや違いに気付くためのペアリング・グルーピング等の工夫

#### ○教師の働き掛けの工夫

- ・対象への気づきを促すための言葉掛け（見付ける、比べる、例える、試す、見通す、工夫する等の学習活動を促す）
- ・自分自身への気づきを促すための言葉掛け（対象との関わりを通してできるようになったこと、粘り強い取組等に注目させる）
- ・気づきの質を高めるための思考の可視化（板書や学習カード等）

### 3 一人一人がよさや可能性を拓く評価の工夫

生活科では、児童が自分の成長や変容、よさといった自分自身への気づきを自覚化し、学びを実生活に生かしていくことが重要です。そのためには、思いや願いを実現させようとする一人一人の姿を教師が丁寧に見取ったり、振り返りを通して児童が自らの成長や活動の手応えを実感したりすることが必要だと考えました。

#### ○形成的評価の充実

- ・対象との出会いの場面（一人一人の思いや願いについて）
- ・学習テーマの設定の場面（一人一人の思いや願いについて）
- ・問題を解決する場面（活動や体験の広がりや深まりについて）
- ・学習活動のゴールの場面（一人一人の成長やよさについて）
- ・学習活動のまとめの場面（実生活への実践的な態度について）

#### ○振り返りの時間の充実

- ・活動の手応えを実感し、次の活動を見通す
- ・友達のコメント、アドバイスにより違う視点から活動を振り返る
- ・蓄積した振り返りを生かし、関わりや考え方の変容を振り返る

### < 1年次研究の重点 >

- ・主体的な活動を支える単元構成の工夫や学習環境の充実
- ・1単位時間内の振り返りの時間の充実と事後の活動における興味の深まりの効果の検証

### Ⅲ 研究実践

#### 1年生実践 『もうすぐ2年生』

実践のテーマ：園児に1年間のできごとを伝える活動を通して、  
自分のよさや可能性に気付く学習

##### 1 研究授業のねらい

本単元では、園児に小学校生活を伝えるために、自分たちの学校生活を振り返ったり、交流会の内容を考え、園児が小学校生活を楽しみにできるような交流会をしたりすることを通して、自分自身をよりよく理解し、よさや可能性に気付き、2年生の生活への意欲を高めたり、自信をもったりできるようになることをねらいました。

指導に当たっては、はじめに、園児に小学校での生活について伝えたいという思いや願いを高めるために、写真やVTRを用いた出会いの活動を展開しました。次に、思いや願いを基にして、児童が学習テーマを設定できるようにしました。

また、園児の「交流を楽しみにしている」「学校での生活が不安である」という思いを大事にしながらか交流会の準備を進めたり、実施したりすることで、相手や目的に応じて関わっていけるよう働き掛けました。

更に、園児のために交流会を準備し、実施することができた自分自身について振り返ることで、自分のよさや可能性に気付き、成長への願いをもって2年生でも意欲的に生活しようとするようになることを考えました。

##### 2 活動の指導計画

時間	学習内容・学習活動	よさや可能性を拓く児童の姿
①	<b>【第1次】「1年間の思い出そう」(4時間)</b> ○写真やVTRから附属幼稚園交流に関心をもつ。 楽しいがいっぱい交流会にしよう！	1年間の出来事や自他の成長に関心をもち、園児に小学校生活を伝えるために、伝えたいことを選んだり、調べたりする姿。
②	○交流会の内容を考える。 入学が楽しみになるように、交流会で学校のことを教えよう。	
③	<b>【第2次】「新しい一年生に知らせよう」(8時間)</b> 入学が楽しみになるには何を伝えたらいいか考えよう。 ○1年間の出来事を振り返り、成長マップにまとめたり、伝えたい内容を振り返りカードに書いたりする。 ○伝えたい内容を交流し、自分が伝えることを考える。 ○内容ごとのグループで、交流会での発表方法を考える。 楽しいがいっぱい交流会では、どのように発表したらよいだろうか。 ○交流会の準備をする。 ○交流会をする。振り返り、友達の頑張りを伝え合う。 小学校が楽しみになってくれて嬉しいな。入学してくるのが楽しみだな。	1年間の自分の頑張りと成長を振り返り、友達の頑張りと成長を進んで伝えている姿。
④		園児のことを考え、相手や目的に応じた伝え方を意識し、分かりやすく伝えようとする姿。
⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		
⑪		
⑫		
⑬		
⑭		

### 3 本時の活動

#### (1) 本時の目標

グループや学級全体で交流会の活動内容を決める活動を通して、伝える相手を想像したり、伝え方を選んだりしている。

#### (2) 本時の展開

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
1 事前に決まっていることや、交流会で「何を伝えるのか」「何をするのか」を確認する。 2 本時の課題を確認する。	・グループ内でだれがどんなことを伝えたいのか分かるように掲示しておく。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">             楽しいがいっぱい交流会では、どのように発表したらよいだろうか。           </div>	
3 交流会の発表方法と方法のよさについて考える。 ・ポスターだと見てすぐ分かる。 ・クイズだとやりとりができる。 4 グループで話し合い発表方法を決める。 ・本だと、物語みたいにして伝えることができるから、できなかったことができるようになったことを伝えるには一番よいと思う。 ・写真を使った紙人形で、人形劇のように説明したら、学校の優しい人のことがよく伝わるんじゃないかな。 5 グループで決めた発表方法と選んだ理由を交流する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇主体的な活動を充実させる指導の工夫</p> <p style="text-align: right; background-color: #800080; color: white; padding: 2px;"><b>研究視点 2</b></p> <p>【評価規準イー②】              活動内容をグループで話し合うことで、伝える相手を想像したり、伝え方を選んだりしている。(発言、付箋、行動観察)</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             園児のために、それぞれのグループで楽しく、分かりやすくまとめて伝えよう。           </div>	
6 本時の振り返りをする。 ・「先生お願い」「ありがとう」のカードを選び、活動について見通すことで次の学習への意欲を高める。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇一人一人がよさや可能性を拓く評価の工夫</p> <p style="text-align: right; background-color: #800080; color: white; padding: 2px;"><b>研究視点 3</b></p> <p>・「先生お願い」「ありがとう」カードに記入する。</p> </div>

#### ◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

○これまでの園児との関わりを振り返ったり、交流会で楽しんでいる様子を想像したりしながら、交流会を通して園児が入学を楽しみにするにはどうすればよいか考える姿。



## IV 1 年次研究の成果と課題

生活科では、研究テーマを「主体的な活動を支える学習環境により、一人一人がよさや可能性を拓く生活科の学習」と設定し、「主体的な活動を支える単元構成の工夫」「自分自身への気づきを促す指導の工夫」「一人一人がよさや可能性を拓く評価の工夫」の3点を中心に、研究を進めました。

1年次研究では「主体的な活動を支える単元構成の工夫や学習環境の充実」と「1単位時間内の振り返りの時間の充実と事後の活動における興味の深まりの効果の検証」を重点として研究を進めてきました。

### 1 研究の成果

- 単元計画において想定されている学習活動に加え、事前調査や発達段階を踏まえ学習活動を想定し、一連の問題解決の流れと児童の意識の流れに沿った展開となるように単元を構成することで、児童一人一人が主体的に活動する姿につながりました。
- 児童が立てた学習テーマを基に、グループでどのように発表するか考える場を設定することで、園児への思いを自覚的に捉え、交流会の目的を再確認するなど、相手意識や目的意識を高め、主体的に交流会の準備をする姿につながりました。
- 終末で振り返り場面を設定し、「ありがとうカード」「お願いカード」の2つの視点から選択し、カードを基に友達や教師とやりとりをすることで、気づきが自覚的になり、次の新たな活動につなぐ原動力とすることができました。

### 2 今後の課題

- 単元構成の工夫や学習環境の充実により、児童が主体的な活動を進めるとともに、学習を繰り返すことで自分のよさや可能性に気づき、実際に行動する姿につなげることが必要です。
- 児童の多様性を生かし、学びをより豊かにするために、教師自身が児童にとって豊かさを感じられる環境の一部となるには、どのように関わっていくのか研究を進める必要があります。

## V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年6月
- 小学校学習指導要領解説 生活編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年6月
- 幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 平成30年3月
- 初等教育資料 No. 968 「幼児期の教育とのつながりを踏まえた生活科の在り方」  
東洋館出版社 平成30年6月
- 初等教育資料 No. 982 「他教科等との関連を意識し、指導の効果を高める生活科の在り方」  
東洋館出版社 令和元年7月
- 初等教育資料 No. 984 「生活科における「見方・考え方」を生かして資質・能力を育成する授業」  
東洋館出版社 令和元年9月
- 初等教育資料 No. 990 「生活科における学習評価の改善と指導の充実」  
東洋館出版社 令和2年2月
- 初等教育資料 No. 992 「新学習指導要領具体化のポイント 生活科」  
東洋館出版社 令和2年4月
- 新学習指導要領の展開 生活編 田村 学編著 明治図書 平成29年10月
- 平成29年改訂 小学校教育課程実践講座 生活 朝倉 淳編著 ぎょうせい 平成30年1月
- 教育の効果 ジョン・ハッティ著 山森光陽監訳 図書文化 平成30年2月
- 「学校」をつくり直す 苫野一徳 河出書房新社 平成31年3月